

基本計画書

基 本 計 画										
事 項		記 入 欄						備 考		
計 画 の 区 分		研究科の専攻に係る課程の変更								
フ リ ガ ナ 設 置 者		カッポウホジシ トウキョウノウキョウダクイダク 学校法人 東京農業大学								
フ リ ガ ナ 大 学 の 名 称		トウキョウノウキョウダクイダク 東京農業大学大学院								
大 学 本 部 の 位 置		東京都世田谷区桜丘1丁目1番地1号								
大 学 の 目 的		本大学は、その伝統及び私立大学の特性を活かしつつ、教育基本法に則り、生命科学、環境科学、情報科学、生物産業学等を含む広義の農学の理論及び応用を教授し、有能な人材を育成すると共に、前記の学術分野に関する研究及び研究者の養成をなすことを使命とする。								
新 設 学 部 等 の 目 的		食料問題、環境・資源・エネルギー問題等の人類的課題間の複雑かつ複層的な関係性を踏まえ、イノベーション農学、サステイナビリティ農学の二つの視点から解決を図りつつ、持続可能な社会を構築するための設計科学としての農学に基づく「デザイン農学」の視点に立った教育研究を展開する。 イノベーション農学は、生物やその生産物が潜在的に有する高度で多様な機能性を活かした食品や生活資材、およびその加工利用技術を開発することを目指すものである。一方、サステイナビリティ農学は、開発された技術や農業の多面的機能を活用しながら、それらを統合・システム化して社会に実装することで豊かで持続可能な社会の構築を目指すものである。これら教育研究の目的と関連する手法の下、高度な専門知識と技術に基づいた人類的課題の分析、生物やその生産物の持つ多面的な機能性を利用した技術・新機能性製品の開発による解決策の開発、さらにそれらを有機的に組み合わせた生活あるいは社会のデザイン、その社会実装のための国内外の産・学・官・民といった様々なステークホルダーとの協働による持続可能な社会の構築に貢献できる自立した研究者または教育者となる人材を養成することを目的とする。								
新 設 学 部 等 の 概 要	新 設 学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所 在 地	【基礎となる学部】農学部 デザイン農学科 農学研究科 デザイン農学専攻（M）	
	農学研究科	年	人	年次人	人		年 月 第 年次			
	デザイン農学専攻（D）	3	2	—	6	博士（農学）	令和6年4月	神奈川県厚木市船子1737番地		
	計		2	—	6					
同一設置者内における変更状況 （定員の移行、名称の変更等）		研究科の専攻に係る課程の変更届出 農学研究科 生物資源開発学専攻（D）（2）（令和5年4月届出）								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数					卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習		計				
デザイン農学専攻（D）		3科目	4科目	1科目		8科目	16単位			
教 員 組 織 の 概 要	学 部 等 の 名 称				専任教員等					兼 任 教 員 等
					教授	准教授	講師	助教	計	助手
	新 設	農学研究科			人	人	人	人	人	人
		デザイン農学専攻（D）			7 (7)	2 (2)	0 (0)	3 (3)	12 (12)	0 (0)
		生物資源開発学専攻（D）			8 (8)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	9 (9)	0 (0)
		計			15 (15)	2 (2)	0 (0)	4 (4)	21 (21)	0 (0)
	既 設	農学研究科			10 (10)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)
		農学専攻（D）								
		動物科学専攻（D）			10 (10)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)
		応用生物科学研究科			10 (10)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)
		農芸化学専攻（D）								
		醸造学専攻（D）			8 (8)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)
		食品安全健康学専攻（D）			11 (11)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)
分	食品栄養学専攻（D）			9 (9)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	5 (5)	

教 員 組 織 の 概 要	既 設 分	生命科学専攻 バイオサイエンス専攻 (D)		9 (9)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	1 (1)	
		分子生命化学専攻 (D)		6 (6)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	10 (10)	0 (0)	1 (1)	
		分子微生物学専攻 (D)		6 (6)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	1 (1)	
		地域環境科学研究科 林学専攻 (D)		8 (8)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	0 (0)	
		農業工学専攻 (D)		9 (9)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	0 (0)	
		造園学専攻 (D)		7 (7)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	0 (0)	
		地域創成科学専攻 (D)		8 (8)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	0 (0)	
		国際食料農業科学研究科 国際農業開発学専攻 (D)		9 (9)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	2 (2)	
		農業経済学専攻 (D)		10 (10)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	2 (2)	
		国際アグリビジネス学専攻 (D)		7 (0)	5 (0)	0 (0)	0 (0)	12 (0)	0 (0)	2 (2)	
		国際食農科学専攻 (D)		6 (0)	5 (0)	0 (0)	0 (0)	11 (0)	0 (0)	2 (2)	
		生物産業学研究科 生物産業学専攻 (D)		29 (29)	7 (7)	0 (0)	1 (1)	37 (37)	0 (0)	1 (1)	
		計		172 (159)	73 (63)	0 (0)	2 (2)	247 (224)	5 (5)	- (-)	
		合 計		187 (174)	75 (65)	0 (0)	6 (6)	268 (245)	5 (5)	- (-)	
教員 以外 の職 員の 概要	職 種		専 任		兼 任		計				
	事 務 職 員		147 (147) 人		11 (11) 人		158 (158) 人				
	技 術 職 員		19 (19)		7 (7)		26 (26)				
	図 書 館 専 門 職 員		5 (5)		1 (1)		6 (6)				
	そ の 他 の 職 員		1 (1)		9 (9)		10 (10)				
	計		172 (172)		28 (28)		200 (200)				
校 地 等	区 分	専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計			東京農業大学第一 高等学校(収容定 員975人、面積基 準 運動場8,400 ㎡)、中等部(収容 定員525人、面積 基準 運動場6,450 ㎡)と共用 借用面積： 3,570.24㎡ 借用期間：60年	
	校 舎 敷 地	354,079.78㎡	0㎡		15,350.76㎡		369,430.54㎡				
	運 動 場 用 地	31,147.98㎡	30,935.81㎡		6,453.99㎡		68,537.78㎡				
	小 計	385,227.76㎡	30,935.81㎡		21,804.75㎡		437,968.32㎡				
	そ の 他	2,571,540.56㎡	0㎡		0㎡		2,571,540.56㎡				
合 計		2,956,768.32㎡	30,935.81㎡		21,804.75㎡		3,009,508.88㎡				
校 舎		専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計			大学全体	
		218,597.43㎡ (218,597.43㎡)	0㎡ (0㎡)		0㎡ (0㎡)		218,597.43㎡ (218,597.43㎡)				
教室等	講義室	演習室	実験実習室		情報処理学習施設		語学学習施設			大学全体	
	101室	82室	707室		8室 (補助職員 0人)		1室 (補助職員 0人)				
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称				室 数				申請専攻全体	
		デザイン農学専攻 (D)				16 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種		電子ジャーナル 〔うち外国書〕 点	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点		○大学全体での共用 分図書338,114冊 〔37,152〕 ○学術雑誌・視聴覚 資料は大学全体の数 ○標本 学部単位での特定不 能なため、大学全体 の数	
	デザイン農学専攻	239,884〔42,533〕 (231,477〔41,588〕)	9,170〔7,566〕 (9,170〔7,566〕)		7,643〔7,430〕 (7,643〔7,430〕)	7,789 (7,659)	618 (618)	33,778 (33,778)			
	計	239,884〔42,533〕 (231,477〔41,588〕)	9,170〔7,566〕 (9,170〔7,566〕)		7,643〔7,430〕 (7,643〔7,430〕)	7,789 (7,659)	618 (618)	33,778 (33,778)			
図書館		面積	閲覧座席数			収 納 可 能 冊 数					
		8,026.19㎡	1,383			1,162,000					
体育館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要								大学全体
		10,371.27㎡	野 球 場 2 面 テ ニ ス コ ー ト 4 面								

経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		教員1人当たり研究費等		387千円	387千円	387千円				
		共同研究費等		5,052千円	5,052千円	5,052千円				
		図書購入費	370千円	386千円	411千円	435千円				
		設備購入費	5,468千円	3,283千円	3,488千円	3,693千円				
	学生1人当たり納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		1,580.6千円	1,340.6千円	1,390.6千円	— 千円	— 千円	— 千円			
	学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金収入、寄付金収入、手数料収入 等						
既設大学等の状況	大 学 の 名 称	東 京 農 業 大 学 大 学 院								
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所 在 地	
	農学研究科	年	人	年次人	人		倍			
	博士前期課程						1.33			
	農学専攻	2	14	—	28	修士（農学）	0.75	昭和28年度	神奈川県厚木市船子1737	
	動物科学専攻	2	12	—	24	修士（農学）	1.62	昭和61年度	同上	
	生物資源開発学専攻	2	10	—	20	修士（農学）	1.85	令和4年度	同上	
	デザイン農学専攻	2	8	—	16	修士（農学）	1.12	令和4年度	同上	
	バイオセラピー学専攻	2	—	—	—	修士（農学）	—	平成22年度	同上	
	博士後期課程						0.47			
	農学専攻	3	5	—	15	博士（農学）	0.33	昭和37年度	同上	
	動物科学専攻	3	4	—	12	博士（農学）	0.75	平成2年度	同上	
	バイオセラピー学専攻	3	3	—	9	博士（農学）	0.55	平成24年度	同上	
	応用生物科学研究科									
	博士前期課程						1.04			
	農芸化学専攻	2	30	—	60	修士（農学）	1.01	令和2年度	東京都世田谷区桜丘1－1－1	
	醸造学専攻	2	20	—	40	修士（農学）	1.32	令和2年度	同上	
	食品安全健康学専攻	2	20	—	40	修士（農学）	0.95	令和2年度	同上	
	食品栄養学専攻	2	6	—	12	修士（農学）	0.91	令和2年度	同上	
	博士後期課程						0.50			
	農芸化学専攻	3	5	—	15	博士（農学）	0.20	令和2年度	同上	
	醸造学専攻	3	2	—	6	博士（農学）	0.50	令和2年度	同上	
	食品安全健康学専攻	3	3	—	9	博士（農学）	0.66	令和2年度	同上	
	食品栄養学専攻	3	2	—	6	博士（農学）	0.66	令和2年度	同上	
	生命科学研究所									
	博士前期課程						1.59			
	バイオサイエンス専攻	2	30	—	60	修士（農学）	1.36	令和3年度	同上	
	分子生命化学専攻	2	20	—	40	修士（農学）	1.85	令和3年度	同上	
	分子微生物学専攻	2	20	—	40	修士（農学）	1.57	令和3年度	同上	
	博士後期課程						0.64			
	バイオサイエンス専攻	3	5	—	15	博士（農学）	0.33	令和3年度	同上	
	分子生命化学専攻	3	5	—	5	博士（農学）	1.00	令和5年度	同上	
	分子微生物学専攻	3	5	—	5	博士（農学）	0.60	令和5年度	同上	
	地域環境科学研究科									
	博士前期課程						1.31			
	林学専攻	2	8	—	16	修士（農学）	1.18	令和3年度	同上	
	農業工学専攻	2	8	—	16	修士（農学）	1.50	令和3年度	同上	
	造園学専攻	2	10	—	20	修士（農学）	1.15	令和3年度	同上	
	地域創成科学専攻	2	6	—	12	修士（農学）	1.41	令和3年度	同上	
	博士後期課程						0.83			
	林学専攻	3	8	—	24	博士（農学）	0.66	令和3年度	同上	
	農業工学専攻	3	8	—	24	博士（農学）	1.50	令和3年度	同上	
	造園学専攻	3	10	—	30	博士（農学）	0.66	令和3年度	同上	
	地域創成科学専攻	3	2	—	2	博士（農学）	0.50	令和5年度	同上	
	国際食料農業科学研究科									
	博士前期課程						0.89			
	国際農業開発学専攻	2	18	—	36	修士（農学）	1.08	令和3年度	同上	
	農業経済学専攻	2	8	—	16	修士（農学）	0.68	令和3年度	同上	
	国際アグリビジネス学専攻	2	10	—	20	修士（農学）	0.80	令和3年度	同上	
	国際食農科学専攻	2	7	—	14	修士（農学）	1.00	令和3年度	同上	
	博士後期課程						1.29			
	国際農業開発学専攻	3	2	—	6	博士（農学）	2.83	令和3年度	同上	
	農業経済学専攻	3	2	—	6	博士（農学）	0.50	令和3年度	同上	
	国際アグリビジネス学専攻	3	2	—	6	博士（農学）	1.33	令和3年度	同上	
	国際食農科学専攻	3	2	—	2	博士（農学）	0.50	令和5年度	同上	

既設大学等の状況	生物産業学研究科 博士前期課程						0.93			
	北方圏農学専攻	2	7	—	14	修士（農学）	0.71	平成22年度	北海道網走市八坂196	令和4年4月名称変更
	海洋水産学専攻	2	5	—	10	修士（農学）	1.10	平成22年度	同上	令和4年4月名称変更
	食香粧化学専攻	2	5	—	10	修士（農学）	1.60	平成22年度	同上	令和4年4月名称変更
	自然資源経営学専攻	2	3	—	6	修士（経営学）	0.33	平成22年度	同上	令和4年4月名称変更
	博士後期課程									
	生物産業学専攻	3	8	—	24	博士（農学又は経営学）	0.20	平成7年度	同上	
	大 学 の 名 称	東 京 農 業 大 学								
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又は 称号	定 員 超過率	開設 年度	所 在 地	
		年	人	年次 人	人		倍			
	農学部						1.06			
	農学科	4	170	—	680	学士（農学）	1.06	昭和24年度	神奈川県厚木市船子1737	
	動物科学科	4	140	—	560	学士（農学）	1.04	昭和24年度	同上	
	生物資源開発学科	4	125	—	500	学士（農学）	1.09	平成30年度	同上	
	デザイン農学科	4	123	—	492	学士（農学）	1.05	平成30年度	同上	
	応用生物科学部						1.06			
	農芸化学科	4	150	—	600	学士（農学）	1.06	平成10年度	東京都世田谷区桜丘1－1－1	
	醸造科学科	4	150	—	600	学士（農学）	1.09	平成10年度	同上	
	食品安全健康学科	4	150	—	600	学士（農学）	1.05	平成26年度	同上	
	栄養科学科	4	120	—	480	学士（農学）	1.05	平成10年度	同上	
	生命科学部						1.05			
	バイオサイエンス学科	4	150	—	600	学士（農学）	1.08	平成29年度	同上	
	分子生命化学科	4	130	—	520	学士（農学）	1.03	平成29年度	同上	
	分子微生物学科	4	130	—	520	学士（農学）	1.05	平成29年度	同上	
	地域環境科学部						1.07			
	森林総合科学科	4	130	—	520	学士（農学）	1.07	平成10年度	同上	
	生産環境工学科	4	130	—	520	学士（農学）	1.04	平成10年度	同上	
	造園科学科	4	130	—	520	学士（農学）	1.08	平成10年度	同上	
	地域創成科学科	4	100	—	400	学士（農学）	1.09	平成29年度	同上	
	国際食料情報学部						1.06			
	国際農業開発学科	4	150	—	600	学士（農学）	1.09	平成10年度	同上	
	食料環境経済学科	4	190	—	760	学士（農学）	1.05	平成10年度	同上	
	アグリビジネス学科	4	150	—	600	学士（農学）	1.07	平成10年度	同上	令和5年4月名称変更
	国際食農科学科	4	110	—	440	学士（農学）	1.05	平成29年度	同上	
	生物産業学部						1.00			
	北方圏農学科	4	91	—	364	学士（農学）	1.00	平成元年度	北海道網走市八坂196	
	海洋水産学科	4	91	—	364	学士（農学）	1.05	平成18年度	同上	
	食香粧化学科	4	91	—	364	学士（農学）	0.95	平成元年度	同上	
	自然資源経営学科	4	90	—	360	学士（経営学）	1.00	平成元年度	同上	
	大 学 の 名 称	東 京 情 報 大 学 大 学 院								
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又は 称号	定 員 超過率	開設 年度	所 在 地	
		年	人	年次 人	人		倍			
	総合情報学研究科 博士前期課程									
	総合情報学専攻	2	15	—	30	修士（総合情報学）	0.80	平成4年度	千葉県千葉市若葉区御成台4丁目1番地	
	総合情報学研究科 博士後期課程									
	総合情報学専攻	3	3	—	9	博士（総合情報学）	0.22	平成11年度	同上	

既設大学等の状況	大 学 の 名 称	東 京 情 報 大 学								
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所 在 地	
		年	人	年次人	人		倍			
	総合情報学部									
	総合情報学科	4	400	3年次10	1,620	学士（総合情報学）	1.13	平成25年度	千葉県千葉市若葉区御成台4丁目1番地	
	看護学部									
	看護学科	4	100	—	400	学士（看護学）	0.79	平成29年度	同上	
附属施設の概要		名称		目的		設置年月				
		1 図書館 (東京都世田谷区桜丘1-1-1)		学生の学習・研究活動の支援施設		平成26年4月				
		農学部図書館 (神奈川県厚木市船子1737)		学生の学習・研究活動の支援施設		平成10年4月				
		生物産業学部図書館 (北海道網走市八坂196)		学生の学習・研究活動の支援施設		平成元年4月				
		2 農学部の附属施設								
		伊勢原農場 (神奈川県伊勢原市三ノ宮前畑)		作物・園芸・環境緑化等の研究・実習 1499-1 他 (79, 910, 22㎡)		平成24年4月				
		富士農場 (静岡県富士宮市麓422)		畜産実習を中心とした実習教育 (323, 260.00㎡)		昭和17年				
		植物園 (神奈川県厚木市船子1737)		有用植物の収集・保存・展示		昭和22年				
		生き物連携センター (神奈川県厚木市船子1737)		人と動植物のかかわりを追求する教育・研究		平成19年4月				
		電子顕微鏡室 (神奈川県厚木市船子1737)		ウイルス・微生物等の微細構造解析		平成10年4月				
		3 応用生物科学部の附属施設								
		食品加工技術センター (東京都世田谷区桜丘1-1-1)		食品加工に関する実践的教育・研究		平成10年4月				
		4 生命科学部の付属施設								
		高次生命機能解析センター (東京都世田谷区桜丘1-1-1)		遺伝子組換え、栄養、生理、遺伝、発生など生命科学分野の研究		平成21年4月				
		5 地域環境科学部の附属施設								
		奥多摩演習林 (東京都西多摩郡奥多摩町氷川2137)		森林のしくみ、育成方法、林業機械の実習等 (653, 016.00㎡)		昭和53年				
		6 国際食料情報学部の附属施設								
		宮古亜熱帯農場 (沖縄県宮古島市城辺字福里72-2)		熱帯農業の実習教育・試験研究 (98, 262.00㎡)		昭和63年				
		7 生物産業学部の附属施設								
		網走寒冷地農場 (北海道網走市音根内59-8)		寒冷地大規模農場の実習教育 (432, 174.00㎡)		昭和57年				
		オホーツク臨海研究センター (北海道網走市能取港町1-1-2)		海洋動植物の生態・生育・繁殖に関する研究 (4, 656.60㎡)		平成18年4月				
		8 総合研究所 (東京都世田谷区桜丘1-1-1)		全学的な研究戦略の推進・実践		平成12年4月				
		9 グローバル連携センター (東京都世田谷区桜丘1-1-1)		海外研究機関との交流ならびに協力連携		平成18年4月				
		10 「食と農」の博物館 (東京都世田谷区上用賀2-4-28)		教育・研究の成果を広く社会に公開		平成16年4月				

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科又は高等専門学校に収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

教 育 課 程 等 の 概 要															
(農学研究科 デザイン農学専攻 博士後期課程)															
科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
農学 研究 科目 共通	知的財産管理法・研究倫理特論	1前		1		○								兼2	集中
	インターンシップ	2前		2				○	7	2		3			集中
	小計（2科目）	—	0	3	0	—			7	2	0	3	0	兼2	
専攻 科目	基礎科目 英語論文作成法	1後	2					○	7	2		3			オムニバス・共同 （一部）
	小計（1科目）	—	2	0	0	—			7	2	0	3	0	兼0	
	特論科目 イノベーション農学後期特論	1前		2		○			4	1					オムニバス・共同 （一部）
	サステイナビリティ農学後期特論	1前		2		○			3						オムニバス・共同 （一部）
	小計（2科目）	—	0	4	0	—			7	1	0	0	0	兼0	
研究 指導 科目	特別研究指導Ⅰ	1通	4					○	7	1					
	特別研究指導Ⅱ	2通	4					○	7	1					
	特別研究指導Ⅲ	3通	4					○	7	1					
	小計（3科目）	—	12	0	0	—			7	1	0	0	0	兼0	
合計（8科目）		—	14	7	0	—			7	2	0	3	0	兼2	
学位又は称号		博士（農学）			学位又は学科の分野			農学関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
【修了要件】 3年以上在学し、所定の授業科目について16単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、当該研究科が行う博士論文の審査及び最終試験に合格すること。 【履修要件】 必修科目14単位、選択必修科目2単位（特論科目の中から主たる研究領域を選択）の合計16単位以上を修得すること。								1 学年の学期区分				2 期			
								1 学期の授業期間				1 5 週			
								1 時限の授業時間				9 0 分			

（注）

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 私立の大学若しくは高等専門学校に収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

授 業 科 目 の 概 要			
(農学研究科 デザイン農学専攻 博士後期課程)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
農学 研究科 共通科目	知的財産管理法・研究倫理 特論	近年、農学分野の技術やブランドを知的財産として認め、これを保護して活用することで新しい評価を創造していこうとする機運が高まっている。しかしながら、知的財産に関する法律は複雑で、独学での習得は困難である。そこで農林水産分野の知的財産管理の専門家が、事例を交えながら解説し、知的財産管理の理解に役立たせるとともに、研究倫理についてコンプライアンスを含め様々な視点から理解し、様々な研究分野での注意点を例示しながら、研究者としての倫理観を涵養することを目的とする。	集中
	インターンシップ	本科目は、学生の将来のキャリア・プランに関連して、一定期間を企業などで就業体験することによって、仕事の本質を理解し、さらなるキャリア・プランの構築を図るものである。実際の職場において就業体験を積むことにより、自身の適性を認識し、職業観を深め、職業選択に役立たせることを目的とする。	集中
研究 科目	基礎 科目	英語論文作成法	オムニバス・共同 (一部)
		(概要) 研究の成果を国際的に発信することは、研究者として最も大切なことである。そのためには、英語による論文を作成し、国際的な学術雑誌に掲載することが必要である。デザイン農学の分野が対象とする領域が自然科学系から社会科学系まで多くの専門分野にまたがっている。このような幅広い分野における英語論文執筆のためのスキル向上を目指した学習を行う。これらのスキル向上によって英語論文を作成する能力を身につけることを目指す。 (オムニバス方式／全15回：単位認定者 2 櫻井 健志) (1 加藤 浩、6 松田 浩敬、9 小池 安比古／3回) 社会デザイン農学研究における担当教員の指導課題に沿った研究を通して得られた成果を元に英語論文を作成することができるよう教授する。 (2 櫻井 健志、12 森元 真理／3回) 生物機能開発学研究における担当教員の指導課題に沿った研究を通して得られた成果を元に英語論文を作成することができるよう教授する。 (3 多田 耕太郎、7 入澤 友啓、11 小泉 亮輔／3回) 食資源利用学研究における担当教員の指導課題に沿った研究を通して得られた成果を元に英語論文を作成することができるよう教授する。 (4 谷口 亜樹子、5 野口 治子、10 風見 真千子／3回) 食機能科学研究における担当教員の指導課題に沿った研究を通して得られた成果を元に英語論文を作成することができるよう教授する。 (8 川嶋 舟／3回) 生活デザイン農学研究における担当教員の指導課題に沿った研究を通して得られた成果を元に英語論文を作成することができるよう教授する。	

研究 科 目	特 論 科 目	イノベーション農学後期特論	(概要) イノベーション農学分野では、環境問題や資源・エネルギー問題・人口問題などの社会課題を、生き物や食に潜在する優れた機能性に着目して、生き物の生体を模倣した環境に優しい製品の開発、おいしさを追求した新しい食品加工技術や食品機能性の探求など、「農」の機能を「ものづくり」に活かしたイノベーションの創出を通して解決することを目指す。本講義では、イノベーション農学分野の指導可能な教員がそれぞれどのような課題を担当し、そして、その解決のためにどのような方法論で取り組んでいるかについて、より高度な知識や専門的・先端的な技術を踏まえた専門家としての視点からの講義を行う。これらの講義により、「農」という科学からイノベーションを起こすための考え方に加え、必要となる知識や技術を養うことを目的とする。 (オムニバス方式／15回：単位認定教員 2 多田 耕太郎) (1 櫻井 健志／5回) バイオミクリー、バイオユーズド、バイオテクノロジーによる生物機能の分析から製品開発にいたるより高度かつ先端的な方法論について学ぶ。さらに、製品開発から製品の社会実装に向けた取り組みについて学び、生物機能開発に関する深い知識や技術を得るとともに、本分野の課題を把握することを目的とする。 (2 多田 耕太郎、7 入澤 友啓／5回) 畜産食品の加工原理および加工技術について主に学ぶ。さらに畜産食品に含まれるタンパク質と脂質の食品科学的特性、機能性、免疫機能などについても学び、食資源利用に関する深い知識、高度かつ先端的な方法論に関する知見を得るとともに、本分野の課題を把握することを目的にする。 (3 谷口 亜樹子、4 野口 治子／5回) 農作物の栄養機能、嗜好機能、生体調節機能について学ぶ。さらに、調理および加工の過程における成分並びに物性の変化について学び、食機能科学に関する深い知識、高度かつ先端的な方法論に関する知見を得るとともに、本分野の課題を把握することを目的にする。	オムニバス・共同 (一部)
		サステナビリティ農学後期特論	(概要) サステナビリティ農学分野では、身近な社会から国境を越えたグローバルな社会までを対象とした環境問題や資源・エネルギー問題・人口問題などの社会課題の解決のために、技術的なイノベーションはもとより、生き物にしか成し得ない心理面や身体面での効果を医療や福祉の分野で活用したり、「食」×「農」×「人」の相乗効果を生み出すことにより、社会と環境に優しい生活スタイルとそれを基盤とした社会の構築を目指す。本講義では、サステナビリティ農学分野の指導可能な教員がそれぞれどのような課題を担当し、そして、その解決のためにどのような方法論で取り組んでいるかについて、より高度な知識や専門的・先端的な技術を踏まえた専門家としての視点からの講義を行う。これらの講義により、「農」の機能により個々人の生活、さらにはそれを基盤とする社会を構築するための考え方に加え、必要となる知識や技術を養うことを目的とする。 (オムニバス方式／15回：単位認定教員 5 松田 浩敬) (5 松田 浩敬／7回) 植物および動物の人間の心理面や身体面に与える効果を評価するより高度、かつ専門的な方法論について学ぶ。さらに、それらを医療や福祉の分野に応用する社会実装に向けた取り組みについて学び、生活デザインに関する深い知識を得るとともに、本分野の課題を把握し、さらにその解決策を模索する方法について検討することを目的にする。 (5 松田 浩敬、6 加藤 浩、9 小池 安比古／8回) 地域社会から開発途上国や先進国といったグローバルな社会における持続可能な社会の構築するうえで必要となる高度、かつ専門的な理論や方法論について学ぶ。さらに、実社会における持続可能な社会の構築に向けた取り組みについて学び、社会デザインに関する深い知識を得るとともに、本分野の課題を把握し、さらにその解決策を模索する方法について検討することを目的にする。	オムニバス・共同 (一部)

研究指導科目	特別研究指導 I	(概要) 本専攻では、食料問題、環境・資源・エネルギー問題等の人類的課題間の複雑かつ複層的な関係性を踏まえ、イノベーション農学、サステイナビリティ農学の二つの視点から解決を図りつつ、持続可能な社会を構築するための設計科学としての農学に基づく「デザイン農学」のアプローチにより研究する。そのため、生物機能開発学、食機能科学、食資源利用学、生活デザイン学、社会デザイン学の5つの研究室の指導教員・指導補助教員が、博士論文の作成に必要な研究の、計画・実施・結果の評価・発表・論文作成など各段階について指導する。特別研究指導 I は、指導課題に沿ったテーマを決定し、研究計画書を作成することを到達目標とする。 各担当教員の指導課題は次の通りである。 (1 加藤 浩 指導教員)(環境・農学) 持続可能な社会の根幹の一つに食料問題がある。今後の地球温暖化の進展や嗜好の変化、地球環境への影響等を考慮する必要など食をめぐる問題は複雑化している。このような状況下で、遺伝子を単離しやすい主要穀物のイネを用いて汎用性のある重要遺伝子を単離し持続可能な社会の礎とすることを目指す。 (2 櫻井 健志 指導教員)(生物機能開発学) 生物の機能が発現する仕組みを理解することは、生物の機能を利用したものづくりにおいて非常に重要である。本課題では、組織学、遺伝子工学、生理学などの領域横断的なアプローチにより生物のさまざまな機能の仕組みの科学的解明を行う。さらに、明らかになった仕組みを参考にしてバイオミミクリー、バイオテクノロジーによる研究開発を目指す。 (3 多田 耕太郎 指導教員)(食品製造学) 食品製造において原材料の加工特性を理解することは、味や物性などの観点から非常に重要である。また、加工食品はそれぞれの加工工程で物理的、化学的、生物学的な反応が複雑に関係しあいながら製造されることから、これらの反応を科学的なアプローチで解明することを試みる。 (4 谷口 亜樹子 指導教員)(食品開発学) 食品の開発は、食品素材の選択から始まり、調理、加工、貯蔵などの工程も重要な要因となる。素材に含まれる基礎的な栄養成分および機能性成分を理解するとともに、各工程における各種成分の変化も考慮した食品の開発を行う。特に、持続可能な社会の構築に食の観点から貢献するために、未利用資源を用いた新たな食品の開発を目指す。 (5 野口 治子 指導教員)(食品機能学) 食品には基本的な栄養成分とその食品に特有の成分が含まれており、食品の機能性はそれらの成分が互いに作用し発現しているものであることから、食品の機能性と成分の関係性を解明する。特に、食品の嗜好性や健康機能にかかわる成分である色素について、加工食品における機能の役割を理解し、新たな素材の活用法の開発を目指す。 (6 松田 浩敬 指導教員)(社会開発学) 「農」を通じた持続可能な社会をデザインするうえで、それらの概念、理論的背景の理解には様々な学問分野の蓄積を把握するだけでなく、それらを適切に総合していくことが重要である。それらの基本的概念・理論の現時点での到達点の概要を把握し、「農」を通じた持続可能な社会の構築へ向けた総合化と応用を目指す。 (7 入澤 友啓 指導補助教員)(食品微生物学) 食品には発酵のように人間にとって有益な形で関わる微生物と腐敗や食中毒のように有害な形で関わる微生物がいる。このような食品に関わる微生物を理解することは我々の食環境や健康に対して大きな意味を持つ。食品に関わる微生物の働きの解明と有効利用を試みる。本教員は上記の研究課題の指導を補助する。 (9 小池 安比古 指導教員)(社会デザイン農学) 持続可能な社会を構築するうえで、地域社会から開発途上国、先進国といったグローバルな社会まで、当該社会内はもちろンスケールの異なる社会間での相互作用を理解し、さらにそれらを踏まえた様々な適正技術の選択と社会実装のあり方を提案することは必須である。これらに向けた理論、調査方法、分析手法等の習得を目指す。	
--------	----------	--	--

研究指導科目	特別研究指導Ⅱ	(概要) 本専攻では、食料問題、環境・資源・エネルギー問題等の人類的課題間の複雑かつ複層的な関係性を踏まえ、イノベーション農学、サステイナビリティ農学の二つの視点から解決を図りつつ、持続可能な社会を構築するための設計科学としての農学に基づく「デザイン農学」のアプローチにより研究する。そのため、生物機能開発学、食機能科学、食資源利用学、生活デザイン学、社会デザイン学の5つの研究室の指導教員・指導補助教員が、博士論文の作成に必要な研究の、計画・実施・結果の評価・発表・論文作成など各段階について指導する。特別研究指導Ⅱは、指導課題に沿って決定した研究テーマで博士論文の骨子を作成することを到達目標とする。 各担当教員の指導課題は次の通りである。 (1 加藤 浩 指導教員)(環境・農学) 持続可能な社会の根幹の一つに食料問題がある。今後の地球温暖化の進展や嗜好の変化、地球環境への影響等を考慮する必要など食をめぐる問題は複雑化している。このような状況下で、遺伝子を単離しやすい主要穀物のイネを用いて汎用性のある重要遺伝子を単離し持続可能な社会の礎とすることを目指す。 (2 櫻井 健志 指導教員)(生物機能開発学) 生物の機能が発現する仕組みを理解することは、生物の機能を利用したものづくりにおいて非常に重要である。本課題では、組織学、遺伝子工学、生理学などの領域横断的なアプローチにより生物のさまざまな機能の仕組みの科学的解明を行う。さらに、明らかになった仕組みを参考にしてバイオミミクリー、バイオテクノロジーによる研究開発を目指す。 (3 多田 耕太郎 指導教員)(食品製造学) 食品製造において原材料の加工特性を理解することは、味や物性などの観点から非常に重要である。また、加工食品はそれぞれの加工工程で物理的、化学的、生物学的な反応が複雑に関係しあいながら製造されることから、これらの反応を科学的なアプローチで解明することを試みる。 (4 谷口 亜樹子 指導教員)(食品開発学) 食品の開発は、食品素材の選択から始まり、調理、加工、貯蔵などの工程も重要な要因となる。素材に含まれる基礎的な栄養成分および機能性成分を理解するとともに、各工程における各種成分の変化も考慮した食品の開発を行う。特に、持続可能な社会の構築に食の観点から貢献するために、未利用資源を用いた新たな食品の開発を目指す。 (5 野口 治子 指導教員)(食品機能学) 食品には基本的な栄養成分とその食品に特有の成分が含まれており、食品の機能性はそれらの成分が互いに作用し発現しているものであることから、食品の機能性と成分の関係性を解明する。特に、食品の嗜好性や健康機能にかかわる成分である色素について、加工食品における機能の役割を理解し、新たな素材の活用法の開発を目指す。 (6 松田 浩敬 指導教員)(社会開発学) 「農」を通じた持続可能な社会をデザインするうえで、それらの概念、理論的背景の理解には様々な学問分野の蓄積を把握するだけでなく、それらを適切に総合していくことが重要である。それらの基本的概念・理論の現時点での到達点の概要を把握し、「農」を通じた持続可能な社会の構築へ向けた総合化と応用を目指す。 (7 入澤 友啓 指導補助教員)(食品微生物学) 食品には発酵のように人間にとって有益な形で関わる微生物と腐敗や食中毒のように有害な形で関わる微生物がいる。このような食品に関わる微生物を理解することは我々の食環境や健康に対して大きな意味を持つ。食品に関わる微生物の働きと有効利用を試みる。本教員は上記の研究課題の指導を補助する。 (9 小池 安比古 指導教員)(社会デザイン農学) 持続可能な社会を構築するうえで、地域社会から開発途上国、先進国といったグローバルな社会まで、当該社会内はもちろんスケールの異なる社会間での相互作用を理解し、さらにそれらを踏まえた様々な適正技術の選択と社会実装のあり方を提案することは必須である。これらに向けた理論、調査方法、分析手法等の習得を目指す。	
--------	---------	---	--

研究指導科目	特別研究指導Ⅲ	(概要) 本専攻では、食料問題、環境・資源・エネルギー問題等の人類的課題間の複雑かつ複層的な関係性を踏まえ、イノベーション農学、サステイナビリティ農学の二つの視点から解決を図りつつ、持続可能な社会を構築するための設計科学としての農学に基づく「デザイン農学」のアプローチにより研究する。そのため、生物機能開発学、食機能科学、食資源利用学、生活デザイン学、社会デザイン学の5つの研究室の指導教員・指導補助教員が、博士論文の作成に必要な研究の、計画・実施・結果の評価・発表・論文作成など各段階について指導する。特別研究指導Ⅲは、博士論文の完成と成果の発表を到達目標とする。 各担当教員の指導課題は次の通りである。 (1 加藤 浩 指導教員)(環境・農学) 持続可能な社会の根幹の一つに食料問題がある。今後の地球温暖化の進展や嗜好の変化、地球環境への影響等を考慮する必要など食をめぐる問題は複雑化している。このような状況下で、遺伝子を単離しやすい主要穀物のイネを用いて汎用性のある重要遺伝子を単離し持続可能な社会の礎とすることを目指す。 (2 櫻井 健志 指導教員)(生物機能開発学) 生物の機能が発現する仕組みを理解することは、生物の機能を利用したものづくりにおいて非常に重要である。本課題では、組織学、遺伝子工学、生理学などの領域横断的なアプローチにより生物のさまざまな機能の仕組みの科学的解明を行う。さらに、明らかになった仕組みを参考にしてバイオミミクリー、バイオテクノロジーによる研究開発を目指す。 (3 多田 耕太郎 指導教員)(食品製造学) 食品製造において原材料の加工特性を理解することは、味や物性などの観点から非常に重要である。また、加工食品はそれぞれの加工工程で物理的、化学的、生物学的な反応が複雑に関係しあいながら製造されることから、これらの反応を科学的なアプローチで解明することを目指す。 (4 谷口 亜樹子 指導教員)(食品開発学) 食品の開発は、食品素材の選択から始まり、調理、加工、貯蔵などの工程も重要な要因となる。素材に含まれる基礎的な栄養成分および機能性成分を理解するとともに、各工程における各種成分の変化も考慮した食品の開発を行う。特に、持続可能な社会の構築に食の観点から貢献するために、未利用資源を用いた新たな食品の開発を目指す。 (5 野口 治子 指導教員)(食品機能学) 食品には基本的な栄養成分とその食品に特有の成分が含まれており、食品の機能性はそれらの成分が互いに作用し発現しているものであることから、食品の機能性と成分の関係性を解明する。特に、食品の嗜好性や健康機能にかかわる成分である色素について、加工食品における機能の役割を理解し、新たな素材の活用法の開発を目指す。 (6 松田 浩敬 指導教員)(社会開発学) 「農」を通じた持続可能な社会をデザインするうえで、それらの概念、理論的背景の理解には様々な学問分野の蓄積を把握するだけでなく、それらを適切に総合していくことが重要である。それらの基本的概念・理論の現時点での到達点の概要を把握し、「農」を通じた持続可能な社会の構築へ向けた総合化と応用を目指す。 (7 入澤 友啓 指導補助教員)(食品微生物学) 食品には発酵のように人間にとって有益な形で関わる微生物と腐敗や食中毒のように有害な形で関わる微生物がいる。このような食品に関わる微生物を理解することは我々の食環境や健康に対して大きな意味を持つ。食品に関わる微生物の働きと有効利用を試みる。本教員は上記の研究課題の指導を補助する。 (9 小池 安比古 指導教員)(社会デザイン農学) 持続可能な社会を構築するうえで、地域社会から開発途上国、先進国といったグローバルな社会まで、当該社会内はもちろんスケールの異なる社会間での相互作用を理解し、さらにそれらを踏まえた様々な適正技術の選択と社会実装のあり方を提案することは必須である。これらに向けた理論、調査方法、分析手法等の習得を目指す。	
--------	---------	--	--

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

東京農業大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和5年度	入学 定員	編入学 定員	收容 定員	令和6年度	入学 定員	編入学 定員	收容 定員	変更の事由
東京農業大学大学院 農学研究科				東京農業大学大学院 農学研究科				
農学専攻(M)	14	—	28	農学専攻(M)	14	—	28	
動物科学専攻(M)	12	—	24	動物科学専攻(M)	12	—	24	
生物資源開発学専攻(M)	10	—	20	生物資源開発学専攻(M)	10	—	20	
デザイン農学専攻(M)	8	—	16	デザイン農学専攻(M)	8	—	16	
農学専攻(D)	5	—	15	農学専攻(D)	5	—	15	
動物科学専攻(D)	4	—	12	動物科学専攻(D)	4	—	12	
バイオセラピー学専攻(D)	3	—	9					
応用生物科学研究科				生物資源開発学専攻(D)	0	—	0	令和6年4月学生募集停止
農芸化学専攻(M)	30	—	60	生物資源開発学専攻(D)	2	—	6	課程の変更(届出)
醸造学専攻(M)	20	—	40	デザイン農学専攻(D)	2	—	6	課程の変更(届出)
食品安全健康学専攻(M)	20	—	40					
食品栄養学専攻(M)	6	—	12	応用生物科学研究科				
農芸化学専攻(D)	5	—	15	農芸化学専攻(M)	30	—	60	
醸造学専攻(D)	2	—	6	醸造学専攻(M)	20	—	40	
食品安全健康学専攻(D)	3	—	9	食品安全健康学専攻(M)	20	—	40	
食品栄養学専攻(D)	2	—	6	食品栄養学専攻(M)	6	—	12	
				農芸化学専攻(D)	5	—	15	
生命科学研究所				醸造学専攻(D)	2	—	6	
バイオサイエンス専攻(M)	30	—	60	食品安全健康学専攻(D)	3	—	9	
分子生命化学専攻(M)	20	—	40	食品栄養学専攻(D)	2	—	6	
分子微生物学専攻(M)	20	—	40					
バイオサイエンス専攻(D)	5	—	15	生命科学研究所				
分子生命化学専攻(D)	3	—	9	バイオサイエンス専攻(M)	30	—	60	
分子微生物学専攻(D)	3	—	9	分子生命化学専攻(M)	20	—	40	
				分子微生物学専攻(M)	20	—	40	
地域環境科学研究科				バイオサイエンス専攻(D)	5	—	15	
林学専攻(M)	8	—	16	分子生命化学専攻(D)	3	—	9	
農業工学専攻(M)	8	—	16	分子微生物学専攻(D)	3	—	9	
造園学専攻(M)	10	—	20					
地域創成科学専攻(M)	6	—	12	地域環境科学研究科				
林学専攻(D)	2	—	6	林学専攻(M)	8	—	16	
農業工学専攻(D)	2	—	6	農業工学専攻(M)	8	—	16	
造園学専攻(D)	2	—	6	造園学専攻(M)	10	—	20	
地域創成科学専攻(D)	2	—	6	地域創成科学専攻(M)	6	—	12	
				林学専攻(D)	2	—	6	
				農業工学専攻(D)	2	—	6	
				造園学専攻(D)	2	—	6	
				地域創成科学専攻(D)	2	—	6	

国際食料農業科学研究科				
国際農業開発学専攻(M)	18	—	36	
農業経済学専攻(M)	8	—	16	
国際アグリビジネス学専攻(M)	10	—	20	
国際食農科学専攻(M)	7	—	14	
国際農業開発学専攻(D)	2	—	6	
農業経済学専攻(D)	2	—	6	
国際アグリビジネス学専攻(D)	2	—	6	
国際食農科学専攻(D)	2	—	6	
生物産業学研究科				
北方圏農学専攻(M)	7	—	14	
海洋水産学専攻(M)	5	—	10	
食香粧化学専攻(M)	5	—	10	
自然資源経営学専攻(M)	3	—	6	
生物産業学専攻(D)	8	—	24	
計	344		747	

国際食料農業科学研究科				
国際農業開発学専攻(M)	18	—	36	
農業経済学専攻(M)	8	—	16	
国際アグリビジネス学専攻(M)	10	—	20	
国際食農科学専攻(M)	7	—	14	
国際農業開発学専攻(D)	2	—	6	
農業経済学専攻(D)	2	—	6	
国際アグリビジネス学専攻(D)	2	—	6	
国際食農科学専攻(D)	2	—	6	
生物産業学研究科				
北方圏農学専攻(M)	7	—	14	
海洋水産学専攻(M)	5	—	10	
食香粧化学専攻(M)	5	—	10	
自然資源経営学専攻(M)	3	—	6	
生物産業学専攻(D)	8	—	24	
計	345		750	

東京農業大学			
農学部			
農学科	170	3年次	680
動物科学科	140	—	560
生物資源開発学科	125	—	500
デザイン農学科	123	—	492
応用生物科学部		3年次	
農芸化学科	150	—	600
醸造科学科	150	—	600
食品安全健康学科	150	—	600
栄養科学科	120	—	480
生命科学部		3年次	
バイオサイエンス学科	150	—	600
分子生命化学科	130	—	520
分子微生物学科	130	—	520
地域環境科学部		3年次	
森林総合科学科	130	—	520
生産環境工学科	130	—	520
造園科学科	130	—	520
地域創成科学科	100	—	400
国際食料情報学部		3年次	
国際農業開発学科	150	—	600
食料環境経済学科	190	—	760
アグリビジネス学科	150	—	600
国際食農科学科	110	—	440
生物産業学部		3年次	
北方圏農学科	91	—	364
海洋水産学科	91	—	364
食香粧化学科	91	—	364
自然資源経営学科	90	—	360
計		2,991	11,964

↑

東京農業大学			
農学部			
農学科	170	3年次	680
動物科学科	140	—	560
生物資源開発学科	125	—	500
デザイン農学科	123	—	492
応用生物科学部		3年次	
農芸化学科	150	—	600
醸造科学科	150	—	600
食品安全健康学科	150	—	600
栄養科学科	120	—	480
生命科学部		3年次	
バイオサイエンス学科	150	—	600
分子生命化学科	130	—	520
分子微生物学科	130	—	520
地域環境科学部		3年次	
森林総合科学科	130	—	520
生産環境工学科	130	—	520
造園科学科	130	—	520
地域創成科学科	100	—	400
国際食料情報学部		3年次	
国際農業開発学科	150	—	600
食料環境経済学科	190	—	760
アグリビジネス学科	150	—	600
国際食農科学科	110	—	440
生物産業学部		3年次	
北方圏農学科	91	—	364
海洋水産学科	91	—	364
食香粧化学科	91	—	364
自然資源経営学科	90	—	360
計		2,991	11,964

東京情報大学 総合情報学部 総合情報学科 看護学部 看護学科	3年次	400	10	1,620
		100	-	400
計		500	10	2,020
東京情報大学大学院 総合情報学研究科 総合情報学専攻(M) 総合情報学専攻(D)		15	-	30
		3	-	9
計		18		39

↑

東京情報大学 総合情報学部 総合情報学科 看護学部 看護学科	3年次	400	10	1,620
		100	-	400
計		500	10	2,020
東京情報大学大学院 総合情報学研究科 総合情報学専攻(M) 総合情報学専攻(D)		15	-	30
		3	-	9
計		18		39

↑